

## 橋梁の維持管理を取り巻く状況と取り組み

国土交通省 関東地方整備局 道路部 道路管理課  
道路構造保全官 窪田光作

### 〔要旨〕

#### 1. 道路の整備の変遷と維持管理の現況

1950年代に現在の主な道路の諸制度が構築されて以降、60年代には初の高速道路が開通するなど、モータリゼーションが飛躍的に進展し、高度経済成長の基盤として道路ネットワークが整備されていった。

その一方で、今後、高度経済成長期に集中して建設された多くの道路施設の高齢化が急速に進み、重大な事故発生の危険性や維持管理・更新費用の増大等への対応が重要な課題となっており、早期にライフサイクルコストの縮減や長寿命化を図る必要がある。

#### 2. 道路橋の現況

アメリカでは日本よりも約30年早い1980年代から多くの道路橋が高齢化を迎え、維持管理・更新費用の増大や重大な橋梁の崩壊事故等が発生している。

日本には約15万橋（2007年4月時点）の橋梁（橋長15m以上）があるが、その多くが今後高齢化を迎えることとなり、現在でもすでに重大事故につながりかねない橋梁の損傷が発見されている。

#### 3. 道路橋の維持管理

国土交通省関東地方整備局では、一般国道：23路線、約2,700橋（橋長2m以上）の橋梁を管理している。これまで橋梁の補修や耐震補強等を鋭意進めてきたところであるが、今後の橋梁の高齢化の進展に当たり、橋梁の崩壊等の重大事故を予防し計画的かつ効率的に維持管理を行うため、橋梁長寿命化修繕計画を策定しこれに基づく予防保全（定期的な点検により早期に損傷を発見し、早期に補修を行う）に取り組んでいる。

地方自治体においても、年々、橋梁の点検や長寿命化修繕計画の策定が進められているところであるが、一部の地方自治体においては、資金、技術力、人材の不足等が原因で点検等が進んでいないところもある。また、点検の進捗により橋梁の損傷・劣化が発見され通行規制する橋梁数が増大するという事態が増えている。

#### 4. 道路橋の維持管理の取り組み

2008年5月「道路橋の予防保全に向けた提言」（道路橋の予防保全に向けた有識者会議）において、全国の道路橋について予防保全を実現するため《5つの方策》が提言された。

国土交通省では、その実現に向けて、技術的な支援を行う拠点を中央及びブロック毎（各地方整備局毎）に設置し、地方自治体職員の技術力向上を図るための研修の実施、長寿命化修繕計画に関する説明会の開催、地方自治体からの要請に応じて自治体管理の重篤な損傷橋梁に技術的助言を行う等、地方自治体への技術的な支援等を鋭意行っている。

また、長寿命化修繕計画の策定及び計画策定に必要な点検や、長寿命化修繕計画に基づく架替え・修繕等に要する費用について助成制度による地方自治体への支援も行っている。

さらに、個別の橋梁の点検結果や補修・補強履歴、既存の損傷・補修事例等を蓄積し、効率的な維持管理に役立つ道路橋データベースの構築にも取り組んでいる。

今後とも、全国の道路橋の長寿命化等を図るため、このような取り組みを進めていく。